

ウクライナ侵略

1年

感染症で犠牲拡大恐れ

ウクライナは元々エイズウイルス(HIV)や結核の感染率が高かった。特に抗菌薬が効きにくい結核は致死率が高く、深刻な問題だった。グローバルファンドが医薬品提供などの支援を続けてきたこともあり、近年は検査や治療を受ける人が増え、発症率や死亡率は大きく低下していた。

しかし、ロシアのウクライナ侵略により、これまでに640以上の医療施設が破壊され、1300万人以上が国内外への避難を強いられた。HIVも結核も治療の継続が重要だが、国内では多くの診療所がなくなり、避難先では治療を続けるのが難しい状況だ。移動診療所の運営や発電



ピーター・サンズ 氏

グローバルファンド事務局長

機の設置など様々な支援を続けているが、これまでの成果がある程度失われるのは間違いない。

多くの戦争では、銃弾や爆弾よりも感染症による犠牲者の方が多くなる。戦争の影響が感染症によって深刻さを増し、戦争が長引くほど被害が大きくなる。特に結核は歴史的にみても戦時に猛威を振るってきた。(結核が拡大しやすい)ストレスが大きく窮屈な環境に置かれ、十分な医療を受けられない状況は、現実

にウクライナで起こっていることだ。

影響はウクライナにとどまらない。戦争によって引き起こされる食料不足や経済の混乱は、特に世界で最も貧しい

人々の感染症との闘いに影を落とす。食料危機が起きると餓死者の数に注目が集まるが、その何倍もの人々が栄養不足に陥ることも忘れてはならない。栄養状態が悪化すると、感染症にかかった時に耐えきれず、生存率が下がってしまう。

紛争は現在、アフリカのサヘル地域やシリアなど世界各地で起きている。さらに気候変動や災害は、あらゆる感染症に影響する。新型コロナウイルスの流行もまだ終わっていない。この瞬間に起きていることは危機の連鎖で、大きな困難が重なった現状を直視する必要がある。

(聞き手・ジュネーブ支局 森井雄一)